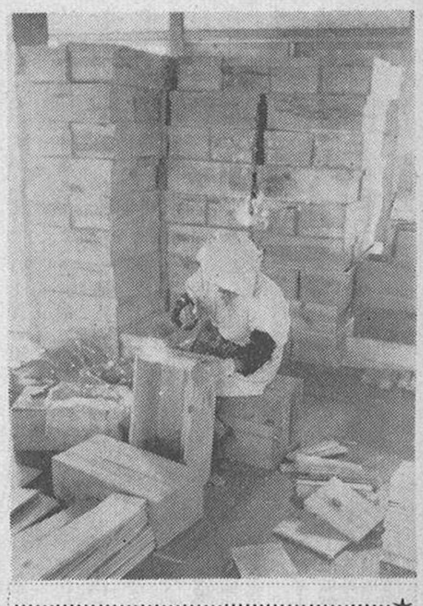
― くまもとの産業 ―

みかんの里をたづねて

今年も豊かなみのりの秋を迎えて、そのすがすがしこの中に私たちの味覚をそゝるものは、まづ一口に云つて〃新鮮な果物〃だということができる。そこで、早くも色づきはじめた〃みかんのなる丘〃そして県の産振計画に呼応して立ちあがつた芦北郡湯浦町を訪ねてみた。……★



鹿児島本線湯浦駅のホームを出て、その線路づたいに戻り道をしながら約十分ほど歩くと、右手に見える傾斜地のだんだん畠がすつかり成育した温州みかんの濃い青葉のしげみに包まれていることがわかつた。立止つてよくそのしげみに眼を注ぐと、葉かげの間に熟つているたくさんのまるい肌が秋のやわらかな日射しにつやつやとかがやきながら映つてくる。本線のレールを踏切り、かなりの匂配をもつた坂道をゆつくりと上つてゆくと、そのだんだん畠の中程に湯浦農協長をやつておられる柳田豊熊さんの広い家がみつかつた。お昼休みにちようど帰つておられた柳田さんは、六十をこえたとは思えぬ若さで、さつそく坂道を上りながらご自慢のみかん畠を案内してくれた。あとに従いて道の両側を交互に眺めてゆくうちに、二ツ三ツと頬を合せてなつているみかんの表情にも、なんだか子供つぽいあどけなさを感じてくる。柳田さんが急に立止つて枝を分けながら腕を伸ばすと、その手にポッカリと口を空けたみかんが握られていた。

「どうしたんですか？」と訊ねると

「これが干ばつの犠牲なんですよ、ほれ、こんなに割れてしまつているでしよう。つまり干ばつのあとに水が入つた証拠なんです」

若々しい元気な表情のみかんに較べると、なるほど無惨な姿である。

「ぢや、こんな被害は相当大きかつたわけですネ」

「それが幸いにも私のところでは、向うに見えるあの貯水タンクのおかげで、ずいぶん助かつたんですよ。まゝにこのような被害もでてくるんですがネ」

云いながら指さされたこの畠のいちばん高いところに建つ小屋へ急いでみると、ちようど柳田さんの長男夫婦がその中に造られた水槽で、黄色の液体を掻き混ぜているところ。

「害虫を防ぐ薬品ですネ」

「そうなんです。いま、この小屋のうしろにある貯水槽から引いた水に石灰硫黄合剤を入れたところなんです。臭いでしよう、この硫黄のにおいは……」

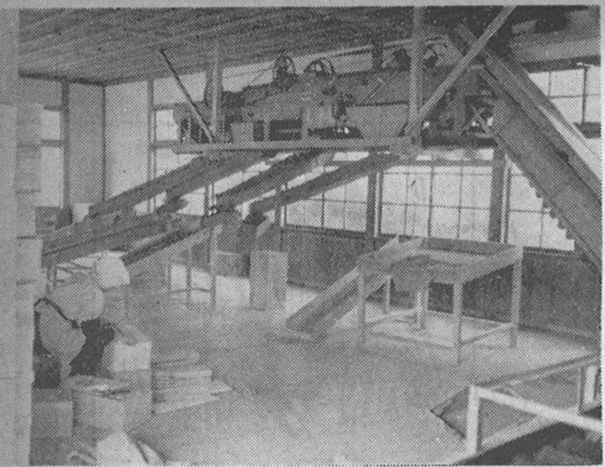
掻きまぜているあいだにその臭いにも馴れて眺めていると、もう一つのバケツからふたたび白い液体が注がれてゆく。

「いま入れたのが第一燐酸石灰で、この混用液で〃赤ダニ〃を防ぐんです。いまから、そこにあるモーターでこの薬品を吸い上げて、パイプを通つたバルブの口から撒布してまわるところなんです」

このみかん畠を上りきつたところに立つ小屋の後からは、昨年度の新農山漁村綜合対策の助成事業で造られたという貯水槽を足元に、みかん園の全景が一眸のうちに俯瞰される。

「これで、どの位の面積なんですか」

「八反とちよつとになりますかな。実は、こゝはもともと町有林だつたのを、二十五年に払い下げて貰つたのです。ご承知のように、この町は一五〇〇戸のうち八〇〇戸というのが農家なんです。しかも町の面積の三分の二以上というのが、このような傾斜地帯なんですから、農家の水田耕作の平均が四反、畑地は僅かに一反というありさまです。町としては産業振興計画を県の産振計画より一年早く始めたのですが、傾斜地農業を利用した野菜、南瓜、胡瓜、馬鈴薯などは栽培技術の点では良くなつたにしろ一向に長つゞきせず、重点産業とはならなかつたんです。そこで県の指導などをいただきながら町としては計画の検討を始めた結果農業生産高一、〇〇〇万円以上を目標として、たばことかんきつの栽培が畜産の牛馬三百頭と共に計画にのせられたわけです。お判りかと思いますが、この一帯が県内では天草に次ぐ温暖の地であることゝ、さきに述べましたように傾斜地が多いことの外に、これが石灰岩などの古生層でできているところに、かんきつの適地適作が生れたわけなんです。産振計画の当初では、各人が苗木補助によつて庭先栽培だけであつたのが、二五年に町役場が町有林二〇町歩の払い下げを始めてから、やつと集団栽培となつたわけでして、これには三ツの条件がつけられたのです。つまり、開墾は五年以内にしなければならないこと、そしてかんきつに限つて一反以上であれば補助をすることゝ、栽培に当つては集団でなければならないということであつたのです。いまのところ、このような払下げ地を含めた栽培面積は町全体として完全植付けをやれば四〇町ぐらい、戸数にして一五〇戸がこのみかんをやつているのですから、平均しますと、三反というところでしようか……」



みかんの大きさを六ツに分ける撰果機……★

すると柳田さんの場合はその約三倍ということになる。

「この町には、かんきつの先駆者と呼ばれている芳川さんが居りましてネ、いまネーブルを主として二町ほど栽培されているんですが、一方、果樹研究グループの良きリーダーでもあるんですよ」

柳田さんの話を承りながら左手の下の方を眺めていると、みかんの茂みの中からさかんに白い水煙のようなものが上つている。長男の昭さんが、さつきの薬品を撒布しているのである。一本の樹から次の樹へと、丹念に動く姿が、ときどき現れてはまた消える。

「手入れもなかなか大変でしようが、いつたい一反に何本ぐらい植えられてあるんですか？」

「そうですね、三十四、五本ぐらいでしようか。収量にして一、〇〇〇貫（三、七五〇キログラム）になりますよ。しかし、私のところで昨年穫れた四千貫のうち、実際に出荷できたのは二千貫でしたが、今年は少くともその倍にはゆきそうです」

「そうしますと、昨年の町全体の出荷量はどのぐらいあつたのですか」

「えゝと、二万貫だつたと思います。もちろん生産量はその倍の四万貫でしたが、規格に外れたものや自家消費の分を除いては完全に共同販売として出荷したわけです。今年は、少くとも昨年の倍はいけると自信をもつているんですがネ」

「このような傾斜地帯が町内の三分の二ということであれば、まだまだみかんの栽培発展の可能性も相当見込まれてよいわけですね」

「そうなんです。さきほど話しましたように完全植付をやれば四〇町、現在の植付状況が三十町ですが、私としては、将来は二〇〇町までは適地として持つてゆく考えです。しかし何と云つても農家の経営水準が低いのが原因で、仲々かんきつ栽培まで手を下すいろいろな余裕が生れてこないのが残念ですよ」

柳田さんの話によると、果樹園芸をやつてゆく上の農家経営の理想的な規模というのは、乳牛、羊が一頭づゝに稲の五反から一町、そして果樹園が四反ということであるが、

「それにしても果樹をやりたいが土地がなくて困るといつた人々には、たしかに町有林の払下げは効果的であつたと思うんです。たゞ中には、どうも手の要つて……と云いながら喰いつかない人もありましたが、大ていの果樹が三年位から実がつくのに較べて、普通みかんが七年もかゝるところに原因もあるようですね。しかし、とにかく二六年から今年までの植付本数を眺めてみても当初の三九六〇本が漸く今年になつて一八、六四〇本という具合に伸びたのですから、果樹園芸に対する意欲というものは大したもんですよ」

「一本の樹にみかんが完全に熟つたとすれば、どれくらいの金額になるものでしようか」

「そうですね、ざつと計算してみて二千円というところが平均でしようね」

「そうしますと、現在の本数で約三千七百万円というところですから町の産振計画の目標を完全に突破したことになりますね」

「えゝ、そういうことになります。たゞ今後の問題として、現在の農協を通した共同販売の出荷態勢を今後もなお堅く持続してゆくことが大切なのですよ」

そう云えば、九州地区果樹研究会で小天、河内のみかん集団産地が全国的にすぐれているに反して、共同販売の態勢がなつていないことや、そのために技術や玉伸びが悪いことを指摘されたが、柳田さんもこの共販態勢について力説されながら、だんだん畠を下りて、次いで農協倉庫へ案内してくれた。そこではちようど山と積んだ三貫五百入りのみかんケースを背にして、姐さんかぶりの婦人がけんめいな箱づくり。

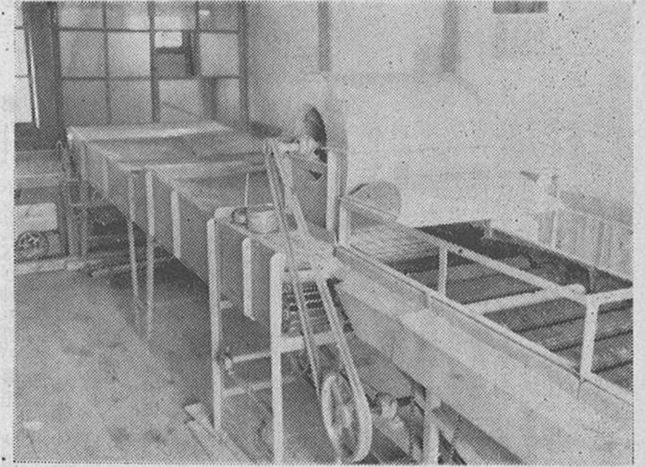
「あれが撰果機というんです。みかんの大きさを六種類に分けて一時間に千箇のみかんが区分されて出てくるのです。そして、その手前にあるのがワックス処理機といつて、撰果機に上げられる前に、みかんの色つきや日持ちを良くするために、ある程度の湿気を持たせるお化粧の役目をするわけなのです。この二つの機械はやはり共販態勢を整えるために一昨年に七十万円で購入したものなんですが、おかげで市場には安心して出荷ができ、味や品質ともに自信のおける共販態勢へもつてゆけたのです」

と柳田さんは、小規模ながら着実な歩みを運ぶ〃みかんの町「湯浦」〃に少からぬ期待と自信を示しながら、事務所へと姿を消した。

では、この辺で、県が推しすゝめている「計画建設」の中で、かんきつがどのようなウエイトを占めているのか、かんたんに述べてみよう。

まづ栽培面積が現在二、八一六町（ヘクタール）、生産量が本年七八九万貫（二九六万キログラム）でその中温州みかんは六七〇万貫（二五一万キログラム）となつて全国第六位を占めている。この中から需給計画に廻る六三六万貫のうち主として北九州向けの二二〇万貫、次いで県内の二六〇万貫、北九州（福岡を除く）以外の県外へ九五万貫、加工へ五〇万貫、そして沖縄方面の輸出に一〇万貫が予定されているが、計画建設の最終年度の四〇年には、作付面積を四、三〇三町（ヘクタール）、生産量として一、一二〇万貫（四、二〇〇万キログラム）に持つてゆく態勢をとゝのえている。すでにこれまでの実績はすべて計画を年度ごとに上廻つており、海外消費地への輸出振興にも十分な期待がかけられている。

（広報課）



みかんにお化粧をほどこすワックス処理機★